

平成 23 年 2 月 21 日

関係機関 各位

山口県医師会長

木下 敬介

スギ花粉飛散開始宣言について

平成 23 年 2 月 18 日(金)、山口県においてスギ花粉飛散開始を宣言します。

山口県医師会では、現在県内の 26 施設でスギ・ヒノキ科花粉飛散数を観測しており、下記の測定地点で 2 月 18 日(金)、**2 月 19 日(土)**と 2 日間続けて 1 cm^2 あたり 1 個以上のスギ花粉が確認されました。これで県内においてスギ花粉の飛散は始まったと言えます。飛散開始日の条件は、一測定施設でスライドガラスの 1 cm^2 内に 1 個以上スギ花粉が捕集される日が原則として 2 日以上続いた最初の日となります。

1. 測定施設、測定個数について

地区	測定機関	2 月 18 日(金)	2 月 19 日(土)
長門	長門総合病院	3.0 個/ cm^2	2.5 個/ cm^2

2. 過去の飛散開始日について

平成 22 年 2 月 8 日	長門地区 厚生連長門総合病院
平成 21 年 2 月 4 日	光・熊毛・宇部・下関・美祢・長門地区 測定
平成 20 年 2 月 2 日	山口大学医学部 測定
平成 19 年 2 月 3 日	厚生連小郡第一病院 測定

3. 予防策

- ・外出時、できるだけ帽子やめがね、マスクを着用する。
- ・外から帰ったときには衣服や頭髪についていた花粉を十分に払いのけ、手洗いや洗顔など、露出した部分を洗うように心がける。
- ・洗濯物や蒲団を干すときには、なるべく花粉がつかないような場所(屋内等)で干し、取り込むときには花粉を十分に払いのける。
- ・内服などの治療や点鼻・点眼を早めに始める。
- ・花粉症でない方も、屋内(室内)にできるだけ花粉を持ち込まないように注意する。

4. 山口県における 2011 年のスギ花粉飛散総数の予測

昨年夏は記録的な猛暑でした。気象庁によると、日本全国の 6 月から 8 月の平均気温は観測史上最高であったそうです。一般に、スギ雄花の形成は、夏の気温が高く、日照時間が長く、降水量が少ないと促進されると考えられています。

昨年 11 月の時点では、雄花を着けている枝の割合の高い木が多いものの、夏の気象のような史上最高の着花状態ではないようです。しかし、平年を大きく上回る花粉飛散になるものと考えられますので、十分な花粉症対策が必要です。

ヒノキ科花粉も平年の 1.5 倍程度であった 2009 年と同程度以上の花芽は着いているようと思われ、多くなることが予想されます。

提供：社団法人 山口県医師会

TEL: 083-922-2510 / FAX: 083-922-2527 URL: <http://www.yamaguchi.med.or.jp>

山口県医師会花粉情報システム

目的

花粉症の軽減と予防を目的として、山口県医師会が主体となり、医療機関をはじめ山口県学校薬剤師会の協力の下、県民に対し花粉飛散状況や予測情報を提供する。

また、測定器具をダーラム型に統一し、各地区の飛散状況の変化も検討しながら、地域に密着した情報を提供するよう取り組む。

提供期間

毎年1月初旬(スギ花粉初観測日)からその年の4月下旬(ヒノキ科花粉飛散終了)まで。

イネ科花粉については、隨時飛散個数を山口県医師会ホームページ上で提供する。

提供団体

山口県医師会花粉情報委員会

提供情報

1 初観測日、スギ花粉飛散開始及び飛散終了宣言

2 飛散状況

3 飛散予測情報

東・中・西・北部の4ブロック

* 2、3については、スギ花粉飛散開始日以降（例年2月上旬）に開始する。

* スギ花粉初観測日とは、その年初めてスギ花粉が測定された日。

* スギ花粉飛散開始日とは、同一測定施設で、1月以降にスライドガラスの1cm²内にスギ花粉が1個以上捕集される日が、原則として2日以上続いた最初の日と定義される。（財団法人日本アレルギー協会の定義による）

システム構成

1 測定施設

県内 26 施設(医療機関・薬局・中学校)

2 測定方法

ダーラム型捕集器を使用

3 測定状況・予測情報集約

山口県医師会事務局で集約

4 測定状況の解析、予測情報の作成

山口県医師会花粉情報委員会

5 情報提供

関係機関にFAX送信、山口県医師会ホームページ

(<http://www.yamaguchi.med.or.jp>) 上で、公開する。